

## 地域との連携は特別なことでない。

特定非営利活動法人 京町家再生研究会  
理事長：小島 富佐江 さん



きちんと筋を通すことが一番です。  
地域に迎合するという意味ではなく、きちっと理解  
してもらえる活動を目指しましょう。(小島さん)

特定非営利活動法人京町家再生研究会は、研究者・技術者などの専門家と町家に住む住民が集まり、京町家の保全再生に向けて調査・研究・提言・広報等の活動を展開されています。専門家の方と住民が一緒になって設立された点が特徴的だと言えます。

京町家再生研究会では、これまでに町家の調査や各種シンポジウム・セミナーの開催や、釜座町町会所、船鉾町会所、八幡山町会所など、様々な地域で町会所をはじめ、町家の改修などを実施してこられました。地域の方々に積極的に参加していただきたいという思いから、近隣の方々に町家改修の現場をみてもらうことを工程の中に入れて、実際に改修作業を体験できるワークショップをする等、地域の方々との交流を日常的に大切にされています。



東京で行ったシンポジウムの様子

### ■印象深かったこと■



釜座町町会所現場見学会の様子

自治会・町内会との連携において印象に残っている活動について伺うと、「どの取組もとても印象深いですが、中でも印象的だったのは『釜座町町会所の改修』とのこと。改修には町内会をはじめとした、様々な人々や団体の協力があり、ここからつながりが発展していったそうです。

連携のきっかけは学区の方々からの声。釜座町の町会所がすごく傷んでいて、改修することで何か次の展開ができないかという話があり、町会所のこれからについて町内の方々との検討がはじまったそうです。

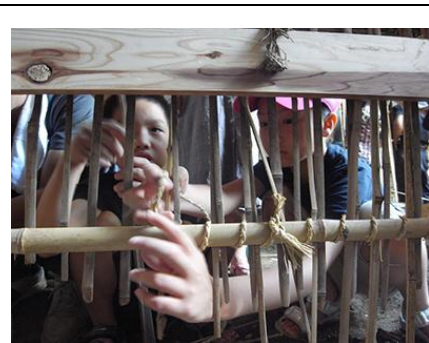
そんなとき、ニューヨークにあるワールド・モニュメント財団が町家の再生に関心があるということを知り、財団にとっても良いモデルケースになるであろうと感じ、町家改修プロジェクトへの資金的な協力を依頼されました。「うれしいことに、『そんな話があるんだったら、それに賭けてみるか』と町内のみなさんがおっしゃってくださったんです。」そう嬉しそうに当時を振り返っておられました。

また、町内会でもプロジェクトチームを結成し、近隣住民の方々へ積極的に声をかけて回ってくださるなどの多大な協力があり、それから2年ほどプロジェクトチームやワールド・モニュメント財団とともに話し合いを重ね、ついに改修までこぎつけることができたそうです。そして完成セレモニーには数多くの町内の方が参加され、ワールド・モニュメント財団の方も完成までの過程を見て、「まさにシンデレラ・ストーリーのようだ」と喜んでいただけたそうです。

完成後は、京町家再生研究会の活動の中から京町家の保全や改修を行う技術的な実践部隊として生まれた「京町家作事組」の事務所として活用されており、また、町内の行事を行う場としても使われています。作事組も町内会のメンバーとして受け入れられています。また、祇園祭関連のお手伝い等にも日頃から積極的に参加されています。

### ■地域との連携は特別なことではない■

「私たちにとって地域との連携というのは特別なことではありません。」そう語る小島さん。「町家の再生」活動そのものがすでに地域に根ざしたもので、地域との協力関係なくしては成り立ちません。「地域で新しく何かを立ち上げたり活動を始めるのなら、町内の方からすれば、何をやるのか気になるのは当たり前。町内の方々に安心していただき、協力していただくためにもきちんと活動を説明し、理解していただくのは当然」と小島さんは語ります。「私たちが関わらせてもらっている所は地域活動が活発で、そのおかげで私たちもスムーズに活動することができています。」この言葉からも自治会・町内会と良好な関係を築けている様子がうかがえます。



修復工事の際に実施したワークショップで木舞（こまい）掻きをする子どもたち

### ■今後の展開■

「地域は割とオープンなところですので、色々な形で窓口を作っているつもりではあるけれど、単身で暮している人など、若い人たちにもっと地域に出て、もっと地域を頼ってほしい。」そう語る小島さん。



全国町家再生交流会の様子

町家を通じた地域の魅力について、ホームページや活動報告等、様々な形で発信されています。また、今も安心して住み続けられるような家を作っていくことを大切にしていきたいとのこと。

専門家や学者ばかりだと机上の空論ばかりになってしまいがちですが、それでは住んでいる方の想いが隠れてしまいます。

「デザイン性ばかりでもだめですし、町家はこうあるべきってものだけでもだめですし、そんな住みにくい形では住めませんって

言われたらそれまでですし…。」今住み続けることができる町家の模索と、そういうマインドを持ってくれる人材の育成も検討しておられます。

### ■自己満足にならないために…■

どういう形で地域の方とお付き合いするかというのは様々な条件や環境等が関係します。地域との付き合い方も一様ではなく、その地域に合った連携の形を自身で見つけ、日頃から関係性を構築していく姿勢が重要となります。それは決して特別なことではなく、日頃から「お互いの行事に参加する・活動情報を伝える・成果を報告する」など、基本的なことです。ただ、情報や成果を伝えたとしても、相手に理解されないという意味がありません。「自己満足に陥ってしまっただけ。良いことをやっているんだから協力するのが当たり前って人がいますが、そんな団体になってはだめ。きちんと筋を通すことが大切です。」そうアドバイスをいただきました。